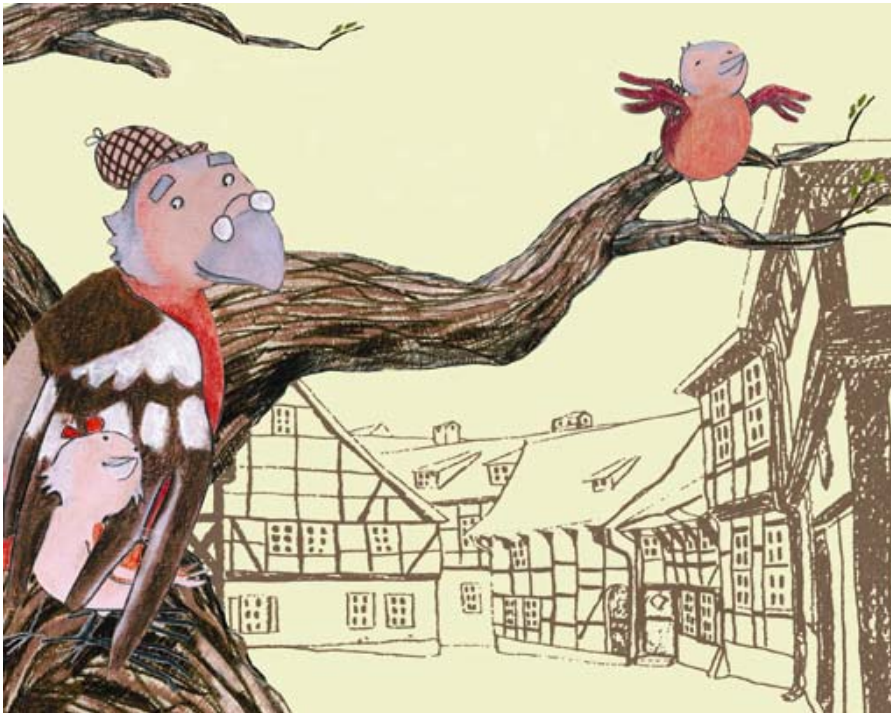


シャーロックおじいちゃんと小さな探偵たち



【絵本紹介】

1994年にユネスコ世界遺産に登録された、小さな小さなドイツの田舎町があります。その町クヴェトリンブルクは、ハルツ山の麓にある人口わずか2万6000人の町。中世の面影を残した貴重なこの町をもっと日本の方々に知ってもらいたい。教科書やガイドブックではないもので、ドイツ中世の暮らしや町の歴史をわかりやすく伝えたいという思いから、ある企画が生まれました。この小さな町の絵本を作り、日本語に翻訳してお届けしようという試みです。

ここクヴェトリンブルクは、ドイツ最初の王さま“ハインリッヒ1世”が好んで暮らした場所として知られています。この作品が一作目となる3人の作者たちは、鳥の歌声が大好きだった王さまのニックネーム“ハインリッヒ鳥獵王”から、小鳥が主人公のこの物語を思いつきました。

どのページを開いてもハラハラ・ドキドキできる、そんなお話です。ストーリーと平行するようにこの町の様子がおもしろく、またわかりやすく紹介されており、子どもから大人まで楽しみながら町の歴史や文化を知ることができます。また、ドイツ語から日本語へ直すことで生じる不自然さをなくすため、文章や言葉の選び方にも気をつけました。

スザンネ・ヴェルリッツァーさんの描く愛らしい挿絵が、この絵本にヨーロッパの雰囲気たっぷりの彩を添えてくれています。

【ストーリー】

おじいちゃんの住むクヴェトリンブルクに遊びに来ていた、双子の兄妹フリーダとフェリックスは、ある朝、偶然にもカササギ窃盗団が教会から大きな宝石を持って飛び去っていくのを目撃してしまいます。あのカササギたち、何だかすごく怪しいぞ。

かつては名探偵だったシャーロックおじいちゃんの助けをかりて、カササギ窃盗団の後を追うことになったフリーダとフェリックス。2匹の小さな探偵たちの冒険がはじまります。デコボコの石畳の道、くねくねした路地、互いに寄り添い合う木組みの家々の間をあっちへこっちへと。クヴェトリンブルクの名所を巡りながら、シャーロックおじいちゃんと2匹の小さな探偵たちは、カササギたちをいっしょうけんめい探します。その道々でフリーダとフェリックスは色々な発見をし、そのたびにシャーロックおじいちゃんや出会うものたちから、おもしろい町の話や昔の様子などを話してもらいます。ストーリーは、見開き22ページで次々と画面が変わり、スリリングに展開して飽きさせません。小さな探偵たちはカササギたちを見つけては見失い、危険な目にも遭いながら、たくさんのことを経験して大きく成長していきます。

そしてついに、小さな探偵たちはカササギ窃盗団を見つけ出し、捕まえることに成功します。おじいちゃんに「恐怖の塔（※かつての牢獄で、実は今は宿泊施設です）へ行かなくてはいけない。」と言われたカササギたちをかわいそうに思ったフリーダとフェリックス。シャーロックおじいちゃんは町をきれいにすることを条件にカササギたちを許してやりませう。宝石は無事教会に戻され、フリーダとフェリックスがシャーロックおじいちゃんも認める一人前の探偵になったところで、「めでたしめでたし」この物語は幕を閉じます。

この絵本は、今秋出版予定です。現段階では、どの程度日本語版に興味を持っていただける方がいるのかを把握したいと思っています。『この絵本を読んでもいいな』と思っていただけの方は、その旨を下記メールアドレスまでご連絡いただければ幸いです。その他、ご意見・ご質問など何でもお気軽にお寄せください。魅力あふれるクヴェトリンブルクの町。この絵本と一緒にドイツへの小さな旅に出てみませんか。

【お問い合わせ・その他ご意見など】

japan@letterado-verlag.de